



TITLE:

高等教育研究開発推進センター日誌・組織・教員業績（2013年4月1日-2014年3月31日）

AUTHOR(S):

CITATION:

高等教育研究開発推進センター日誌・組織・教員業績（2013年4月1日-2014年3月31日）. 京都大学高等教育研究 2014, 20: 89-128

ISSUE DATE:

2014-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/197281>

RIGHT:

高等教育研究開発推進センター日誌

（2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日）

年 月 日	記 事
2013. 4. 3	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 25 年度第 1 回）
4. 4	文学研究科プレ FD プロジェクト事前研修会
4.15	関西地区 FD 連絡協議会第 8 回幹事会
4.24	国立台湾大学教学発展センター（Center for Teaching and Learning Development, National Taiwan University）のセンター訪問
5. 2	教授 赤松 紀彦 北方崑曲劇院にて当院所蔵の中国伝統演劇関係資料の閲覧と意見交換のため中国へ海外出張（5.7 帰国）
5. 8	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 25 年度第 2 回）
5.15	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 25 年度第 1 回）
5.15	准教授 溝上 慎一 Crowne Plaza Riverfront, Saint Paul にて資料整理及び 2102 SRIF 21st Annual Conference meeting in Saint Paul, Minesota に参加のためアメリカへ海外出張（5.21 帰国）
5.18	<p>関西地区 FD 連絡協議会 第 6 回総会</p> <p>場所：京都大学百周年時計台記念館</p> <p>開会挨拶：大久保 敦（大阪市立大学）</p> <p>講演：</p> <p>「高等教育の新展開と学問の雄飛に寄せて」喜久里 要（大阪大学）</p> <p>議事：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 24 年度活動報告について 2. 平成 25 年度活動方針について 3. 平成 24 年度決算について 4. 平成 25 年度予算について 5. 次期幹事校の選出について 6. 関西地区 FD 連絡協議会の今後について 7. その他 <p>ポスターセッション「FD 活動報告会 2013」</p> <ol style="list-style-type: none"> 01 （発表取消） 02 大阪キリスト教短期大学 池田 美芽（学長） 『大阪キリスト教短期大学 FD 活動の取り組み』 03 大阪府立大学 星野 聡孝（高等教育推進機構（高等教育開発センター））

- 『授業アンケートから学修自己評価を核としたeポートフォリオへ』
- 04 大谷大学短期大学部 (仏教科)
『大谷大学短期大学部仏教科におけるFD活動の可視化—場が生み出す教育活動の構造—』
- 05 大谷大学短期大学部 (幼児教育保育科)
『大谷大学短期大学部幼児教育保育科におけるFD活動の可視化—協働・連携による教育活動の構造—』
- 06 関西大学
中澤 務・林田 定男・小林 至道・西浦真喜子 (教育開発支援センター)
『〈考え、表現し、発信する力〉を育てるライティング支援体制の構築』
- 07 関西医科大学
木下 洋・菅谷 泰行・河本 慶子・友田 幸一 (医学教育センター)
『カリキュラムの大巾改訂と診療参加型臨床実習の推進』
- 08 畿央大学 石川 裕之 (教育推進室／教育学部)
『総合的で組織的な学生支援のための担任制度』
- 09 京都学園大学 行廣 隆次・森田 洋二 (FD推進委員会)
『学生による授業評価アンケートの情報活用』
- 10 京都光華女子大学
『エンロールメント・マネジメントにおける教育改革の取組事例とIR』
- 11 京都産業大学 (教育支援研究開発センター)
『対話を促進する教育支援研究開発センターの主な活動紹介』
- 12 京都産業大学
大和 隆介 (外国語学部長)・中村 暢宏 (総合生命科学部)・森脇可奈子 (学長室)
『京都産業大学 理系英語セミナー実施報告—グローバルで活躍する理系産業人の育成プログラム始動に向けた初期的調査と課題—』
- 13 近畿大学 牧野 眞貴 (法学部)
『英語が苦手な大学生の英語に対する好感度、自己効力感、英語力を高める授業実践』
- 14 神戸薬科大学 (薬学基礎教育センター)
『神戸薬科大学薬学基礎教育センターの学力向上を目指した最近の試みについて』
- 15 滋賀大学 鈴木 康夫 (経済学部)
『経済学部初年次導入教育の再編・充実化』
- 16 滋賀県立大学 倉茂 好匡 (環境科学部)
『環境生態学科の科学的和文作文法指導』
- 17 四條畷学園短期大学 北村 瑞穂・鍛冶谷 静・奥田 純 (FD委員会)
『四條畷学園短期大学のFD活動』
- 18 東洋食品工業短期大学 松永 藤彦 (FD委員長／包装食品工学科)
『新入生合宿研修2013：コミュニケーション活性化と食を通じたもの作り体験』
- 19 同志社女子大学 若本 夏美 (英語英文学科)
『TA×LMSによる授業のエンパワーメント・サイクル授業「白熱化」の取り組み』
- 20 奈良大学 中原洪二郎 (社会学部)

『地域連携による組織横断的教育を目指して—奈良大学地域連携教育研究センターの取り組み—』

21 姫路獨協大学 片山 俊郎（FD 委員会）

『医療保健学部教員による授業改善の取り組み』

22 兵庫教育大学 山中 一英・吉水 裕也（大学院学校教育研究科）

『兵庫教育大学における FD 活動の現状と今後の方向性』

23 びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部

中西 健治（短期大学部ライフデザイン学科）

『「学生の自主性・自信を育み、目標を実現する教育支援」を目指した FD 活動の取り組み』

24 武庫川女子大学

渡邊 完児・西山 明美・田中新治郎・北村 薫子・玉田 健二・宗光 猛（FD 推進委員会）

『武庫川女子大学における FD 推進活動のこれまでの取り組みについて』

25 立命館大学

『立命館大学におけるピア・エデュケーション』

26 流通科学大学 南木 睦彦（教学支援センター長）

『新たな初年次教育の構築—学修支援・教育支援との一体的改革をめざして—』

27 和歌山大学 伊東 千尋^A・上山とも子^B（授業評価改善作業部会）

（^Aシステム工学部、^B教育企画課）

『教養科目における授業評価アンケートの実施とその分析』

28 和歌山大学 江田 裕介・片山聡一郎・富田 晃彦・小関 彩子（教育学部）

『学生の授業評価視点に関する因子分析—教育学部専門科目のアンケートから—』

29 和歌山県立医科大学 羽野 卓三（教育研究開発センター長）

『プラグマティズム的臨床医育成プログラム—ハードマインドとソフトマインドの融合による患者評価に立脚した「実践的臨床医」育成プログラム—』

閉会挨拶

5.28 FD 研究検討委員会（第 14 回）

6.12 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 25 年度第 3 回）

6.20 平成 25 年度科学研究費助成事業・基盤研究（A）新規

「大学教育改善の促進と教育イノベーション普及のための「大学教育コモンズ」の構築」

研究代表者：飯吉 透 高等教育研究開発推進センター教授

研究分担者：大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター教授

松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授

田地野 彰 高等教育研究開発推進センター教授

溝上 慎一 高等教育研究開発推進センター准教授

田口 真奈 高等教育研究開発推進センター准教授

酒井 博之 高等教育研究開発推進センター准教授

田中 一孝 高等教育研究開発推進センター特定助教

鈴木 晶子 教育学研究科教授

梶田	将司	学術情報メディアセンター教授
喜多	一	学術情報メディアセンター教授
土佐	尚子	学術情報メディアセンター教授
高橋	幸	国際高等教育院准教授
小野	和宏	新潟大学医歯学系教授
尾澤	重知	早稲田大学人間科学学術院准教授
岡部	洋一	放送大学学長
重田	勝介	北海道大学情報基盤センター准教授
村上	正行	京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授
内村	浩	京都工芸繊維大学アドミッションセンター教授
加藤	恭子	高田商科大学商学部講師
筒井	洋一	京都精華大学人文学部教授
天野	一哉	星槎大学共生科学部准教授
駒井	章治	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科准教授
鈴木	敦	茨城大学人文学部教授
坂田	信裕	獨協医科大学基本医学情報教育部門教授
稲葉利江子		津田塾大学学芸学部准教授
神谷	健一	大阪工業大学知的財産学部講師
村上	祐子	東北大学文学研究科准教授

平成 25 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 継続

「総合研究大学における英語学術論文作成技能の育成に向けた全学共通教育のコース設計」

研究代表者：田地野 彰 高等教育研究開発推進センター教授

研究分担者：高橋 幸 国際高等教育院准教授

金丸 敏幸 人間・環境学研究科助教

寺内 一 高千穂大学商学部教授

飯島 優雅 獨協大学経済学部准教授

平成 25 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 新規

「一官能基型金ナノラベル剤の開発およびクライオ電子顕微鏡による生体分子相互作用解析」

研究代表者：山本 行男 高等教育研究開発推進センター教授

研究分担者：多喜 正康 人間・環境学研究科助教

平成 25 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 新規

「大学におけるコースポートフォリオ評価のためのルーブリック開発」

研究代表者：酒井 博之 高等教育研究開発推進センター准教授

平成 25 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 新規

「3次元動的プラットフォームを用いた新たな平衡機能トレーニング法の確立」

研究代表者：久代 恵介 高等教育研究開発推進センター准教授

研究分担者：五島 史行 慶應義塾大学医学部講師

平成 25 年度科学研究費助成事業・挑戦的萌芽研究 新規

「ソフトシステム方法論を援用した意味重視の英語指導法の開発・検証」

研究代表者：田地野 彰 高等教育研究開発推進センター教授

研究分担者：金丸 敏幸 人間・環境学研究科助教

笹尾 洋介 豊橋技術科学大学工学部講師

- 6.21 准教授 ダルスキー デビッド ジュローム San Antonio Convention Center にて ISTE 2013 に参加のためアメリカへ海外出張 (6.26 帰国)
- 6.29 平成 25 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 継続
「深い学習を促すパフォーマンス評価の開発—OSCE-R を中心に—」
研究代表者：松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授
研究分担者：平山 朋子 藍野大学医療保健学部准教授
平成 25 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 継続
「青年期発達における自己形成の研究」
研究代表者：溝上 慎一 高等教育研究開発推進センター准教授
- 7.10 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 25 年度第 4 回)
- 7.13 特定助教 田中 一孝 University of Pisa にて国際プラトン学会に参加、研究発表、ピサ大学における資料収集及び Pisa Palazzo dei Congressi にて国際プラトン学会に参加・研究発表のためイタリアへ出張 (7.21 帰国)
- 7.17 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 25 年度第 2 回)
- 7.26 准教授 スチュワート ティモシー ウィリアム Vancouver にてカリキュラム開発及び FD プロジェクトについての打ち合わせ会議に参加、University of Windsor・University of Toronto にて書籍原稿執筆及び研究調査、Capilano University にて授業研究及び学術論文に関するワークショップに参加のためカナダへ海外出張 (8.23 帰国)
- 7.29 平成 25 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 継続
「若手 FD 担当者が抱く問題意識とキャリア展望」
研究代表者：大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター教授
研究分担者：杉原 真晃 山形大学基盤教育院准教授
村上 正行 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授
半澤 礼之 北海道教育大学教育学部准教授
- 8.3～4 高校教育フォーラム 2013—大学そして社会への架橋
「キャリアと学びを社会にどうつなぐか」
主催：学研教育みらい
協賛：京都大学高等教育研究開発推進センター
場所：京都大学百周年時計台記念館
プログラム (1 日目)：
総司会：長尾 博暢 (鳥取大学大学教育支援機構キャリアセンター准教授)
イントロダクション：大堀 精一 (学研教育みらい「学研・進学情報」監修)
大学の部
新フォーラムへの期待と登壇者の紹介
溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)
レクチャー1
「若者の友人関係、その現代的变化」
浅野 智彦 (東京学芸大学教授)

レクチャー2

「キャリア教育を見極め、なじませる」

浦坂 純子（同志社大学社会学部教授）

会場参加者ショート・ディスカッション

ランチタイムミーティング

挨拶 上村 直之（学研教育みらい・学力開発事業部長）

大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター長）

パネル・ディスカッション

浅野 智彦（東京学芸大学教授）

浦坂 純子（同志社大学社会学部教授）

ファシリテーター：溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

高校の部①

実践レポート 1

「文理の枠を超えて教養を培う—SSH でできること」

駒形 一路（静岡県立磐田南高校教諭）

実践レポート 2

「13 年目を迎えた KI プロジェクト」

福永 幸成（鹿児島県立甲南高校教諭）

パネル・ディスカッション

「高校におけるキャリア教育とはなにか」

小澤 幸樹（岩手県立盛岡第一高校教諭）

島村 精二（岡山県立岡山朝日高校教諭）

石井 裕基（香川県立観音寺第一高校教諭）

大堀 精一（学研教育みらい「学研・進学情報」監修）

司会：長尾 博暢（鳥取大学大学教育支援機構キャリアセンター准教授）

フロアーからの質問

第 1 日の総括

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

懇親会

プログラム（2 日目）：

高校の部②

特別企画（対談）

「人の心を思いやる想像力の育成—これからの教育」

原島 博（東京大学名誉教授）

村上 育朗（教育未来研究会「そうぞう」）

高校教育からの報告

大内 英紀（北海道函館中部高校教諭）

岡田 善史（徳島県立川島高校教諭）

千葉 栄美（青森県立弘前高校教諭）

2 日間を振り返って

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

長尾 博暢（鳥取大学大学教育支援機構キャリアセンター准教授）

閉会の辞：上村 直之（学研教育みらい・学力開発事業部長）

8.5 大学院生のための教育実践講座 2013—大学でどう教えるか—

FD 研究検討委員会主催

高等教育研究開発推進センター共催

場所：京都大学百周年時計台記念館

開会式 挨拶 宮川 恒（FD 研究検討委員会委員長）

趣旨とプログラム説明

酒井 博之（高等教育研究開発推進センター准教授）

【BASIC】

セッション 1 グループ討論 1 「大学授業をどう思うか（自己紹介）」

セッション 2 ミニ講義 1 「大学授業の現在と未来」

飯吉 透（高等教育研究開発推進センター教授）

セッション 3 ランチと自由討論

セッション 4 グループ討論 2 「大学授業で教師に求められるもの」

セッション 5 ボディワーク 「他者とのつながり・自分とのつながり」

濱野 清志（京都文教大学教授）

セッション 6 ミニ講義 2 「大学授業の現場から見たプレ FD」

吉沢 一也（大阪体育大学講師）

グループ討論整理

セッション 7 全体討論 「大学で教えるために」

セッション 8 ミニ講義 3 「大学で教えるということ」

大塚 雄作（高等教育研究開発推進センター長・教授）

【ADVANCED】

セッション 1 全体討論 1 「教える側からみた大学授業（自己紹介）」

セッション 2 ランチと自由討論

セッション 3 模擬公開授業・検討会

セッション 4 グループ・全体討論

閉会式 挨拶・修了証授与 淡路 敏之（京都大学理事）

閉会式終了後 情報交換会

- 8.13 教授 飯吉 透 マサチューセッツ工科大学にて KyotoUx と edX ミーティング、個別 edX 相談会及び当該課題の資料調査、同大学にて Harvard 他いくつかの大学と共同で edX Training Workshop、及び当該課題の資料調査のためアメリカへ海外出張（8.17 帰国）

8.17 大学生研究フォーラム 2013

「学生のうちに経験させたいこと—大学生の今、変わる企業—」

東京大学・京都大学・電通育英会共催

場所：東京大学本郷キャンパス・伊藤謝恩ホール

イントロダクション

中原 淳（東京大学大学総合教育研究センター准教授）

基調講演

「教育が日本をひらく グローバル世紀への提言」

安西祐一郎（独立行政法人日本学術振興会理事長）

Learningful Lunch・主催者挨拶

挨拶 吉見 俊哉 (東京大学副学長／大学総合教育研究センター長／教授)
大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター長／教授)
森 隆一 (公益財団法人電通育英会理事長)

Learningful Talk (1) 「大学・大学生の今を知る」

「大学生の学び、キャリア」

溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

「大学生のインターンシップ、企業」

佐藤 博樹 (東京大学大学院情報学環教授)

「大学生の留学」

松尾 泰樹 (文部科学省 高等教育局 学生・留学生課長)

司会：中原 淳 (東京大学大学総合教育研究センター准教授)

Learningful Talk (2) 「企業経営のフロンティアを知る」

「変わる採用」

田中 潤 (株式会社ぐるなび執行役員人事部門長兼総務部門長)

「変わる働き方・人材活用」

奈良崎修二 (日産自動車株式会社 人事本部 副本部長)

司会：中原 淳 (東京大学大学総合教育研究センター准教授)

ダイアログ・セッション

小括 中原 淳 (東京大学大学総合教育研究センター准教授)

総括パネルディスカッション

「学生のうちに経験させたいこと」

吉見 俊哉 (東京大学 副学長／大学総合教育研究センター長／教授)

平田 純一 (立命館アジア太平洋大学副学長／教授)

笹倉 和幸 (早稲田大学大学院 政治経済学術院教授／学生部長)

司会：大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター長／教授)

閉会 溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

8.18 高校教諭のためのシンポジウム

「高校生のうちに身につけさせたいこと—社会とつながる学びとキャリア形成—」

大学生研究フォーラム 2013 併催

場所：東京大学本郷キャンパス・伊藤謝恩ホール

イントロダクション

溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

講演

「変化への適応を通じたキャリア形成の軌跡—JAXA での経験をもとに高校のキャリア教育を考える」

井尻 達也 (京都市立堀川高等学校教諭)

パネルディスカッション (1)

溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

中原 淳 (東京大学大学総合教育研究センター准教授)

井尻 達也 (京都市立堀川高等学校教諭)

司会：成田 秀夫 (河合塾 教育研究開発本部 開発研究職・講師)

ランチョンセミナー

講演

「高校での学びを通じたキャリア意識の形成—大阪府教育センター附属高校などの取り組み」

中濱 秀徳（大阪府教育センター教育課程開発部主任指導主事）

パネルディスカッション（2）

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

中原 淳（東京大学大学総合教育研究センター准教授）

井尻 達也（京都市立堀川高等学校教諭）

中濱 秀徳（大阪府教育センター教育課程開発部主任指導主事）

司会：成田 秀夫（河合塾 教育研究開発本部開発研究職・講師）

ダイアログ・セッション

指定討論

安彦 忠彦（神奈川大学特別招聘教授／中央教育審議会委員）

総括パネル・ディスカッション

安彦 忠彦（神奈川大学特別招聘教授／中央教育審議会委員）

井尻 達也（京都市立堀川高等学校教諭）

中濱 秀徳（大阪府教育センター教育課程開発部主任指導主事）

司会：成田 秀夫（河合塾 教育研究開発本部 開発研究職・講師）

総括と次年度に向けて

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

8.27～28

MOST フェロー合宿 2013

（第2期 MOST フェローシッププログラム第2回ミーティング）

場所：KKR ホテル大阪 ボードルーム

プログラム（1日目）

開会挨拶

挨拶・本合宿研究会の趣旨について

飯吉 透（京都大学高等教育研究会開発推進センター教授）

MOST フェロー合宿プログラムについて

酒井 博之（京都大学高等教育研究会開発推進センター准教授）

セッション1 MOST フェロー活動報告

司会：酒井 博之（京都大学高等教育研究会開発推進センター准教授）

発表者（五十音順）

天野 一哉（星槎大学）

稲葉利江子（津田塾大学）

内村 浩（京都工芸繊維大学）

加藤 恭子（高崎商科大学）

神谷 健一（大阪工業大学）

駒井 章治（奈良先端科学技術大学院大学）

坂田 信裕（獨協医科大学）

鈴木 敦（茨城大学）

筒井 洋一（京都精華大学）

村上 祐子（東北大学）

- セッション2 デイナーセッション
司会：河合 道雄（京都大学大学院教育学研究科修士課程）
キャスストーク1（ゲスト：第1期 MOST フェロー）
勝又 あずさ（成城大学）・木村 修平（立命館大学）
キャスストーク2
飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
プログラム（2日目）
セッション3 今年度後半のプログラムについて
今後の MOST フェローについて（グループワーク）
ファシリテーター：酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）
セッション4 第20回大学教育研究フォーラムに向けて
- 9.3 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成25年度第5回）
- 9.5～6 平成25年度全国大学教育研究センター等協議会参加
参加者：松下 佳代（高等教育研究開発推進センター教授）
- 9.10 京都大学新任教員教育セミナー2013
高等教育研究開発推進センター・FD研究検討委員会共同主催
場所：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール
開会式 挨拶：松本 紘（総長）
司会：松下 佳代（高等教育研究開発推進センター教授）
セッション1
ミニ講義1：「京都大学のFD・教育改善」
宮川 恒（FD研究検討委員会・委員長）
セッション2
ミニ講義2：「京大生の学習の実態」
溝上 慎一（高等教育研究開発推進センター准教授）
セッション3
ミニ講義3：「京大の教育的取組」
「教養・共通教育」
北野 正雄（国際高等教育院・教育院長）
「京大の教育の国際化戦略」
森 純一（国際交流推進機構・機構長）
「ICT利用による教育支援」
飯吉 透（高等教育研究開発推進センター教授）
「京都大学の教育サポートリソース」
田中 一孝（高等教育研究開発推進センター特定助教）
セッション4
ミニ講義4：「私の授業」
鎌田 浩毅（人間・環境学研究科教授）
セッション5
グループ討論：「京大でどう教え、指導するか」
【事】…事例紹介者、【ファ】…ファシリテーター

1. 学生を授業に巻き込む—対話を根幹とした自学自習を本気で考えてみる—

【事】 平竹 潤（化学研究所教授）

【ﾌｧ】 松下 佳代（高等教育研究開発推進センター教授）

2. 学生の多様化にどう対応するか？

【事】 須田 淳（工学研究科准教授）

【ﾌｧ】 溝上 慎一（高等教育研究開発推進センター准教授）

3. 英語による授業をどう行うか？

【事】 天野 洋（農学研究科教授）

【ﾌｧ】 飯吉 透（高等教育研究開発推進センター教授）

4. 学生の思考力を鍛える

【事】 楠見 孝（教育学研究科教授）

【ﾌｧ】 酒井 博之（高等教育研究開発推進センター准教授）

5. 困難を抱えた学生に向き合うには

【事】 上床 輝久（健康科学センター助教）

【ﾌｧ】 大塚 雄作（高等教育研究開発推進センター教授）

6. 博士課程院生のためのキャリア形成支援

【事】 梅田 幹雄（健康科学センター教授）

【ﾌｧ】 田中 一孝（高等教育研究開発推進センター特定助教）

セッション6 ラップアップ

閉会式 挨拶：大塚 雄作（高等教育研究開発推進センター長・教授）

閉会式終了後 情報交換会

- 9.12 教育関係共同利用拠点『相互研修型 FD 共同利用拠点』平成 25 年度運営委員会

- 9.13 FD 代表者ネットワーク（JFDN）平成 25 年度会合

場所：京都大学 吉田南キャンパス 吉田南一号館 106 会議室

開会挨拶 大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター長）

I. FD ネットワークおよび教育関係共同利用拠点の現状と課題 I

1. 小貫有紀子（九州地域大学教育改善 FD・SD ネットワーク：Q-Links・九州大学）

「かたらしってえ Q-Links 2013」

2. 山田 剛史（四国地区教職員能力開発ネットワーク（SPOD）／教職員能力開発拠点・愛媛大学）

「四国地区における教職員能力開発の展開と成果」

3. 七田麻美子（山陰地区 FD 連絡協議会および山陰地域ソーシャルラーニングセンター・島根大学教育開発センター）

「山陰地域ソーシャルラーニングセンターの取組について」

4. 徳永 寿老（大学コンソーシアム京都）

「大学コンソーシアム京都における持続可能な FD と FD ネットワークのための取組」

II. FD ネットワークおよび教育関係共同利用拠点の現状と課題 II

5. 大塚 雄作（関西地区 FD 連絡協議会・京都大学）

「教育関係共同利用拠点の今後—関西地区 FD 連絡協議会の行方—」

6. 丹羽 雅之（医学教育共同利用拠点・岐阜大学）

	<p>「共同利用拠点としての成果と今後の方向性」</p> <p>7. 夏目 達也 (FD・SD 教育改善支援拠点・名古屋大学) 「『名古屋大学 FD・SD 教育改善支援拠点』の活動と課題」</p> <p>8. 内藤 徹 (仁愛女子短期大学教授・F レックス FD チームリーダー) 「福井県の FD 活動—FD チームを中心として—」</p> <p>9. 青野 透 (大学コンソーシアム石川・金沢大学) 「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」</p> <p>10. 北池 正 (看護学教育研究共同利用拠点・千葉大学) 「看護学教育研究共同利用拠点の現況と課題—看護学教育における FD マザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト—」</p> <p>11. 江本 理恵 (いわて高等教育コンソーシアム・岩手大学) 「いわて高等教育コンソーシアムの FD・SD の取り組み」</p> <p>ディスカッション</p> <p>コメント：東條 正範 (文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室専門官) 安部田康弘 (文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室学務係長)</p> <p>司会：大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター長)</p>
9.14～15	<p>第 10 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム参加</p> <p>参加者：大塚 雄作 (高等教育研究開発推進センター教授)</p>
9.18	<p>教授 松下 佳代 ハワイ大学医学部にて Damon Sakai 准教授訪問及び PBL に関する情報収集のためハワイへ海外出張 (9.22 帰国)</p>
9.26	<p>昭和女子大学小原奈津子副学長のセンター訪問</p>
10. 1	<p>教授 田地野 彰 The Banff Park Lodge にて TBLT 2013 に参加、「アカデミックライティング指導へのタスク中心アプローチ—タスクを通して学生間相互作用は活性化するか」をテーマとした研究発表及び「タスクを活用したアカデミックライティング研究」の動向・課題についての情報収集のためカナダへ海外出張 (10.7 帰国)</p>
10. 2	<p>ランチセミナー「Online Course Design」</p> <p>講師：Brandon Muramatsu (マサチューセッツ工科大学オフィスオブエデュケーションイノベーションアンドテクノロジー シニア IT コンサルタント)</p>
10. 9	<p>北京師範大学教師発展センター (Center for Faculty Development, Beijing Normal University) のセンター訪問</p>
10. 9	<p>高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 25 年度第 6 回)</p>
10.10	<p>第 86 回公開研究会</p> <p>「深いアクティブラーニングを創発させる学習評価とテクノロジー—Learning Catalytics を中心に—」</p> <p>主催：京都大学高等教育研究開発推進センター</p> <p>協賛：学校法人河合塾教育研究開発本部、関西地区 FD 連絡協議会</p> <p>京都大学大学院教育学研究科「卓越した大学院拠点形成支援」プロジェクト</p>

- 場所：キャンパスプラザ京都 2階ホール
 開会挨拶・趣旨説明
 松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
 講演＋ワークショップ
 エリック・マズール（ハーバード大学教授）
 「学びにおけるイノベーションの促進：PBL、TBL、Learning Catalytics を巡って」
 “Promoting Innovations in Learning: PBL, TBL, and Learning Catalytics”
 パネルディスカッション
 司会 松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
 パネリスト
 飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
 酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）
 コメント エリック・マズール（ハーバード大学教授）
 ディスカッション
 閉会挨拶 松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
- 11.1 准教授 久代 恵介 Chinese Culture University にて The 6th Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science に参加、研究発表のため台湾へ海外出張（11.5 帰国）
- 11.5 東京大学大学総合教育研究センター小林雅之教授のセンター訪問
- 11.5 教授 飯吉 透、准教授 酒井 博之 The Canyons Resort にて Open Education Conference2013 に参加、当該課題遂行及びオープンエデュケーション・eポートフォリオに関する情報収集のためアメリカへ海外出張（11.10 帰国）
- 11.8 東京学芸大学学長補佐・教員養成カリキュラム開発研究センター三石初雄教授、東京学芸大学事務局渡邊明彦参事役、東京学芸大学総務部総務課草薨公課長のセンター訪問
- 11.13 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成25年度第7回）
- 11.23 教授 飯吉 透 edX Office にて当該業務遂行及びedX Consortium Meeting 参加、American Academy of Arts & Sciences にて当該業務遂行及びedX Consortium Meeting 参加のためアメリカへ海外出張（11.27 帰国）
- 11.25 FD 研究検討委員会・第9回勉強会
 場所：京都大学附属図書館3階 ライブラリーホール
 1. はじめに
 2. 「学生の自主的な学習を促す取組」調査報告について
 （FD 研究検討委員会委員アンケート回答報告）
 3. 話題提供について
 講演1「学習支援サービス PandA の活用について」
 喜多 一（国際高等教育院教授）
 講演2「学生の自主的な学習をサポートするツールについて」
 酒井 博之（高等教育研究開発推進センター准教授）
 4. 全体討論
 5. まとめ
 6. その他

- 11.27 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 25 年度第 3 回)
12. 6 工学部主催「第 9 回工学部教育シンポジウム」
 場所：京都大学桂キャンパス・桂ホール
 開会挨拶 北野 正雄 (工学部長)
 話題提供
 「メディアやテクノロジーを利用した大学教育の最新動向」
 飯吉 透 (高等教育研究開発推進センター教授)
 話題提供
 「国際高等教育院における教養共通教育の改善に向けた検討状況」
 土井 真一 (国際高等教育院副教員院長・法学研究科教授)
 「教育改善に向けて 私の授業—アンケート結果を受けて—」
 高田 光雄 (建築学科)
 永持 仁 (情報学科)
 中尾 佳亮 (工業化学科)
 話題提供
 「地球工学科国際コースにおける学部教育の現状と課題」
 金 哲佑
 「委員長総括」
 西山 峰広 (新工学教育プログラム実施専門委員会委員長)
 ディスカッション
- 12.11 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 25 年度第 8 回)
- 12.18 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 25 年度第 4 回)
2014. 1. 8 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 25 年度第 9 回)
1. 8 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 25 年度第 5 回)
- 1.13 准教授 スチュワート ティモシー ウイリアム Thammasat University にてキャンパス訪問、語学施設見学及びワークショップに参加、The Empress Hotel にて Thailand TESOL 2014 Annual Conference に参加のためタイへ海外出張 (1.19 帰国)
- 1.22 高等教育研究開発推進センター協議員会 (平成 25 年度第 1 回)
- 1.24 センター研究会 “How to Promote Faculty-Led Educational Innovation”
 「教員主体の教育イノベーションをどのように推進するか」
 報告者：Philip Long (オーストラリア・クイーンズランド大学情報工学部教授)
- 1.26 第 87 回公開研究会・国際シンポジウム
 「学生の学びをどう記録し分析するか—MOOCs、アクティブラーニングと Learning Analytics をめぐって—」
 JSPS 科研費基盤研究 (A)「大学教育改善の促進と教育イノベーション普及のための『大学教育コモンズ』の構築」(研究代表者：飯吉 透、25242017)
 主催：京都大学高等教育研究開発推進センター

協賛：河合塾教育研究開発本部、関西地区 FD 連絡協議会

協力：京都大学学術情報メディアセンター

後援：大学 ICT 推進協議会（AXIES）

場所：京都大学 芝蘭会館（稲盛ホール）

開会挨拶：淡路 敏之（京都大学理事（教育担当））

司会：田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

基調講演

Philip Long（Professor/Director, Center for Educational Innovation and Technology,
University of Queensland）

「データを『レンズ』として利用し『学習の霧』を見通す—カゲロウか実体か？—」
“Seeing through the Fog of Learning Using Data as a Lens: ephemera or substance?”

コーヒーブレイク

講演

飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

「日本の高等教育改革とアナリティクスの可能性—MOOC、オープンエデュケーション、ICT 利用による教育支援をめぐって—」

指定討論

1. 美濃 導彦（京都大学学術情報メディアセンター教授・情報環境機構長・京都大学 CIO）

「ICT 利用による大学教育支援の観点から」

2. 鳥居 朋子（立命館大学教育開発推進機構教授）

「教育マネジメントの観点から」

3. 溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

「アクティブラーニングの観点から」

パネルディスカッション

モデレーター：松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

閉会挨拶：大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター長）

1.29～30

センター研究会合宿

講師：里見 朋香（文部科学省高等教育局大学振興課長）

2.17

高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 25 年度第 10 回）

2.19

高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 25 年度第 6 回）

2.20

文学研究科プレ FD プロジェクト平成 25 年度事後研修会

3.10

准教授 酒井 博之 ソウル大学にて文科省委託調査に関する情報収集を行うため韓国へ海外出張（3.11 帰国）

3.10

教授 飯吉 透、准教授 酒井 博之（3.11～） UNESCO にてフランスにおける ICT 教育活用に関する調査を行う、フランス高等教育研究省にて FUN の総括責任者 Ms. Mongenet とミーティングを行う、OECD にてフランスにおける ICT 活用教育に関する調査を行うためフランスへ海外出張（3.15 帰国）

3.14 平成 25 年度第 5 回 MOST 講習会

京都大学高等教育研究開発推進センター主催

関西地区 FD 連絡協議会 広報 WG 共催

場所：京都大学吉田南 1 号館 1 共 23 教室

趣旨説明、MOST・KEEP Toolkit の概要説明

酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

MOST 操作説明

参加者によるスナップショットの作成

3.18～19 第 20 回大学教育研究フォーラム

協賛：学校法人河合塾教育研究開発本部、関西地区 FD 連絡協議会

場所：京都大学吉田南 1 号館・総合館、百周年時計台記念館

シンポジウム

開会の挨拶：松本 紘（京都大学総長）

シンポジウム「学生の学びをどうデータ化し、どう利用するか？」

報告者 小野 和宏（新潟大学歯学部教授／副学部長）

報告者 久保 猛志（金沢工業大学副学長／教育点検評価支援担当）

報告者 上杉 志成（京都大学物質－細胞統合システム拠点教授／副拠点長）

報告者 岡田 圭子（獨協大学経済学部教授／全カリ英語部門担当／GP 事業推進責任者）

指定討論者 秋山 卓也（文部科学省高等教育局高等教育企画課高等教育政策室室長補佐／大学評価専門官）

司 会 松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

小講演 1

平田 純一（立命館大学経済学部教授／立命館副総長）

村上 隆（中京大学現代社会学部教授）

伊勢田哲治（京都大学大学院文学研究科准教授）

飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

小講演 2

鈴木 克明（熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻教授・専攻長）

阿部 光伸（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室講師）

藤本 夕衣（東京大学大学総合教育研究センター特任研究員）

白水 始（文部科学省国立教育政策研究所初等中等教育研究部／教育研究情報センター総括研究官）

村中 崇信（中京大学工学部電気電子工学科准教授）

参加者企画セッション 8 件

個人研究発表 6 部会 92 件

教育評価研究部会 (1) (2) (3) ／カリキュラム研究部会 (1) (2) (3) ／授業研究部会 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) ／FD・授業公開研究部会 (1) (2) (3) (4) ／e-Learning・遠隔教育研究部会 (1) ／大学生・大学生生活研究部会 (1) (2) (3)

3.25	教授 田地野 彰 Oregon Convention Center にて TESOL 2014 国際会議に参加、情報収集のためアメリカへ海外出張（3.31 帰国）
3.26	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 25 年度第 7 回）

（寺井佐加恵）

高等教育研究開発推進センター組織

(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

高等教育研究開発推進センター協議員：

大塚 雄作	センター長		
飯吉 透	センター教授	松下 佳代	センター教授
吉田 純	センター教授	山本 行男	センター教授
赤松 紀彦	センター教授	田地野 彰	センター教授
北野 正雄	国際高等教育院長		
喜多 一	国際高等教育副教育院長		
富田 恭彦	人間・環境学研究科長		
有賀 哲也	大学院理学研究科長		
伊藤 和行	大学院文学研究科教授		
前平 泰志	大学院教育学研究科長		
寺田 浩明	大学院法学研究科教授		
塩地 洋	大学院経済学研究科教授		
小西 靖彦	大学院医学研究科教授		
橋田 充	大学院薬学研究科教授		
白井 泰治	大学院工学研究科教授		
久米 新一	大学院農学研究科教授		
佐藤 亨	大学院情報学研究科長		
中島 浩	学術情報メディアセンター長		

高等教育研究開発推進センター運営委員：

大塚 雄作	センター長		
飯吉 透	センター教授	松下 佳代	センター教授
吉田 純	センター教授	山本 行男	センター教授
赤松 紀彦	センター教授	田地野 彰	センター教授
田口 真奈	センター准教授	溝上 慎一	センター准教授
桂山 康司	センター准教授	久代 恵介	センター准教授
Dalsky David Jerome	センター准教授	Stewart Timothy William	センター准教授
酒井 博之	センター准教授		
田中 一孝	センター特定助教		

平成 25 年度学外研究協力者：

米谷 淳	神戸大学大学教育推進機構教授
山内 乾史	神戸大学大学教育推進機構教授
吉田 雅章	和歌山大学経済学部准教授
神藤 貴昭	立命館大学文学部准教授
吉田 文	早稲田大学教育・総合科学学術院教授
中原 淳	東京大学大学総合教育研究センター准教授

田中 每実 武庫川女子大学文学部教授
 荒木 光彦 京都大学名誉教授
 井下 理 慶應義塾大学総合政策学部教授
 山田 礼子 同志社大学社会学部教授
 村上 正行 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授
 杉原 真晃 山形大学基盤教育院准教授
 山田 剛史 愛媛大学教育・学生支援機構准教授
 小田 隆治 山形大学地域教育文化学部教授
 絹川 正吉 新潟大学理事
 夏目 達也 名古屋大学高等教育研究センター教授
 本郷優紀子 桜美林大学eラーニング支援室長・教員免許状更新講習センター事務局長
 尾澤 重知 早稲田大学人間科学学術院准教授
 圓月 勝博 同志社大学文学部教授
 沖 裕貴 立命館大学教育開発推進機構教授
 林 創 岡山大学教育学部准教授
 栗田佳代子 東京大学大学総合教育研究センター特任准教授
 坂東 昌子 NPO 法人 知の人材ネットワーク・あいんしゅたいん理事長
 高橋 哲也 大阪府立大学副学長
 Eric Mazur Harvard 大学教授
 Randy Bass Georgetown 大学 Associate Provost

平成 25 年度学内研究担当教員：

子安 増生 大学院教育学研究科教授
 田中 耕治 大学院教育学研究科教授
 高見 茂 大学院教育学研究科教授
 杉本 均 大学院教育学研究科教授
 楠見 孝 大学院教育学研究科教授
 大山 泰宏 大学院教育学研究科准教授
 土井 真一 大学院法学研究科教授
 出口 康夫 大学院文学研究科准教授
 永井 和 大学院文学研究科教授
 福谷 茂 大学院文学研究科教授
 宮川 恒 大学院農学研究科教授
 美濃 導彦 学術情報メディアセンター教授
 喜多 一 学術情報メディアセンター教授（5月～国際高等教育院教授）

平成 25 年度企画協力教員

丸橋 良雄 大学院人間・環境学研究科教授
 酒井 敏 大学院人間・環境学研究科教授
 西山 教行 大学院人間・環境学研究科教授
 日置 尋久 大学院人間・環境学研究科准教授
 壇辻 正剛 学術情報メディアセンター教授

高等教育研究開発推進センター教員業績

(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

※職名は 2013 年度

第一部門（高等教育教授システム研究開発部門）

大塚 雄作（教授）

1. 研究業績

【その他著作物】

（報告書）

- ・大塚雄作 2014.3 「はじめに」『京都大学高等教育叢書 33 相互研修型 FD 拠点活動報告 2013』3-15 頁
- ・大塚雄作・田中一孝・斎藤有吾 2014.3 「FD ネットワーク代表者会議」同上, 229-286 頁
- ・大塚雄作・田中一孝 2014.3 「相互研修型 FD 共同利用拠点諮問委員会の概要」同上, 287-298 頁
- ・大塚雄作・田中一孝 2014.3 「相互研修型 FD 共同利用拠点運営委員会の概要」同上, 299-302 頁

（その他）

- ・大塚雄作 2013.5 「大学教育学会の高等教育研究」『高等教育研究』第 16 集, 65-78 頁, 日本高等教育学会

2. 教育活動

【学内】

②学部教育

- ・「教育心理尺度開発演習」（前期）

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A」（教育学研究科, 前期）
- ・「高等教育評価演習 A」（教育学研究科, 前期）
- ・「高等教育開発論研究 B」（教育学研究科, 後期）
- ・「高等教育評価演習 B」（教育学研究科, 後期）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科, 前期）
- ・研究科横断型教育プログラム「大学で教えるということ」（教育学研究科, 後期）

【学外】

- ・桜美林大学大学院国際学研究科大学アドミニストレーション専攻（修士課程）通信教育課程非常勤講師「高等教育研究調査法」
- ・早稲田大学教職大学院「学力調査・評価の方法と活用」（集中講義：8/27～29）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進センター センター長
- ・京都大学教育研究評議会 評議員
- ・京都大学大学評価委員会 委員
- ・高等教育研究開発推進機構執行協議会 協議員

【社会活動】

- ・一般社団法人日本教育心理学会 社員・ハラスメント防止委員会委員長
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構 学位審査会専門委員
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構 大学機関別認証評価委員会委員
- ・特定非営利活動法人実務能力認定機構理事
- ・最高裁判所 家庭裁判所調査官試験委員会臨時委員
- ・ISO/TC232（人材育成と非公式教育サービス）国内審議委員会委員
- ・電通育英会 奨学生選考委員
- ・財団法人短期大学基準協会評議員
- ・大学教育学会 理事
- ・高等教育質保証学会 評議員・第3回大会実行委員長
- ・日本高等教育学会 理事
- ・創価大学 外部評価委員
- ・大阪大学人間科学部 外部評価委員
- ・国立大学協会 大学評価委員会 専門委員

【講演・シンポジウムなど】

- ・大塚雄作 2013.4.2 「主体的学びと学修時間—大学教育質の転換答申をどう乗り越えるか—」名古屋大学教養教育院
- ・大塚雄作 2013.7.3 「学生の自立を促す教育—教育評価の観点から—」武庫川女子大学
- ・大塚雄作・齊藤有吾 2013.7.27 「マネジメント人材に求められる能力とは—5大学共同・管理職調査から—」教育関係共同利用拠点及び広島大学高等教育研究開発センター共同開催研究会『大学マネジメントに求められるもの—期待される能力と人材育成—』東北大学東京オフィス
- ・大塚雄作 2014.1.7 「大学院教育における教職を目指す院生の能力育成—学びの共同体をどう形成するか—」神戸市看護大学
- ・大塚雄作 2014.2.4 「学生の主体的学びを引き出す教育に向けて」山梨大学
- ・大塚雄作 2014.3.20 「効果的な授業のふりかえり—リフレクションペーパーの作成と活用—」岐阜大学医学部看護学科

松下 佳代（教授）

1. 研究業績

【著書】

（編著）

- ・鈴木真理子・楠見孝・都築章子・鳩野逸生・松下佳代編著 2014.3 『科学リテラシーを育むサイエンス・コミュニケーション—学校と社会をつなぐ教育のデザイン—』北大路書房.
- ・溝上慎一・松下佳代編著 2014.3 『高校・大学から仕事へのトランジション—変容する能力・アイデンティティと教育—』ナカニシヤ出版.

（分担執筆）

- ・松下佳代 2013.9 「パフォーマンス評価」田中智志・橋本美保監修，山内紀幸編『教育課程論』（pp. 177-190）—藝社.
- ・松下佳代 2013.10 「PISA の影響の下で，対抗的な教育実践をどう構想するか—グローバル化とテクノロジーの高度化の中で—」日本教育方法学会編『教育方法 42』（pp. 10-24）図書文化.
- ・松下佳代 2014.3 「トランス・サイエンスの時代の科学的リテラシー」鈴木真理子・楠見孝・都築章子・鳩野逸生・松下佳代編著『科学リテラシーを育むサイエンス・コミュニケーション—学校と社会をつなぐ教育のデザイン—』（pp. 156-162）北大路書房.
- ・松下佳代 2014.3 「はじめに」「大学から仕事へのトランジションにおける〈新しい能力〉—その意味の相対化—」

溝上慎一・松下佳代編著『高校・大学から仕事へのトランジション—変容する能力・アイデンティティと教育—』
(pp. 1-4, 91-117) ナカニシヤ出版.

【論文】

- ・松下佳代・小野和宏・高橋雄介 2013.5 「レポート評価におけるルーブリックの開発とその信頼性の検討」『大学教育学会誌』第35巻第1号, 107-115 頁
- ・松下佳代 2013.9 「〈新しい能力〉とその評価」『産業と教育』第731号, 2-7 頁
- ・松下佳代・田口真奈・大山牧子 2013.11 「深い学習の評価ツールとしてのコンセプトマップの有効性—哲学系入門科目でのアクションリサーチを通じて—」『大学教育学会誌』第35巻第2号, 121-130 頁
- ・松下佳代 2013.11 「教育から学習への転換を支えるもの—カリキュラムの観点から—」『大学教育学会誌』第35巻第2号, 10-14 頁
- ・平山朋子・松下佳代・西村敦・堀寛史 2013.12 「OSCE リフレクション法の有効性—2 年次 OSCE (医療面接) での学生の学びの分析を通して—」『医学教育』第44巻第6号, 387-396 頁
- ・松田岳士・松下佳代 2014.2 「活動理論に基づく教育実践のデザイン—「胚細胞モデル」を用いた新たなインストラクショナルデザインの試み—」『日本教育工学会論文誌』第37巻第4号, 521-528 頁
- ・松下佳代 2014.3 「学習成果としての能力とその評価—ルーブリックを用いた評価の可能性と課題—」『名古屋高等教育研究』第14号, 209-229 頁

【その他の著作物】

(報告書)

- ・田口真奈・田中一孝・松下佳代 2014.3 「文学研究科プレ FD プロジェクト」『京都大学高等教育叢書 33 相互研修型 FD 拠点活動報告 2013』20-30 頁
- ・田中一孝・松下佳代 2014.3 「大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか—」同上, 35-47 頁
- ・松下佳代 2014.3 「新任教員教育セミナー 2013」同上, 93-112 頁
- ・松下佳代・田中一孝 2014.3 「FD 連携企画ワーキンググループ」同上, 170-174 頁
- ・松下佳代・田中一孝 2014.3 「深いアクティブラーニングを創発させる学習評価とテクノロジー」同上, 303-305 頁
- ・松下佳代・大山牧子・畑野快・蔣妍 2014.3 「ハーバード・MIT 訪問調査報告」同上, 366-375 頁

(その他)

- ・松下佳代 2013.6 「大学における学習成果の評価の動向」『全大教時報』第37巻第2号, 1-55 頁
- ・松下佳代 2013.4 「学習成果の評価の現状と課題」『Guideline』2013 年 4・5 月号, 46-49 頁
- ・松下佳代 2013.5 「大会企画「技と学び—美術教育の未来へ向けて—」記録」(小川三夫・島原正敏・小松佳代子と)『美術教育研究』第18号, 36-64 頁
- ・松下佳代 2013.7 「ディープ・アクティブラーニングと自立させるカリキュラムづくり」『武庫川女子大学平成24年度「学生の自立を促す教育」のための勉強会報告書』39-83 頁
- ・松下佳代 2013.9 「〈新しい能力〉とパフォーマンス評価」『科研費 NEWS』2013 年度 Vol.2, 6 頁

【学会発表】

- ・松下佳代 2013.6.1 「教育から学習への転換を支えるもの—カリキュラムの観点から—」大学教育学会第35回大会(公開シンポジウム「教育から学習への転換を支えるもの—カリキュラム・空間・マネジメント—」)東北大学
- ・松下佳代 2013.7.6 「目標—評価システムの光と影」日本カリキュラム学会第24回大会(課題研究「社会の変化に対応して育成すべき資質・能力とカリキュラム開発」)上越教育大学
- ・松下佳代 2013.11.30 「大学における学習成果としての能力とその評価—標準化への対抗軸—」教育目標・評価学会第24回大会(課題研究「〈新しい能力〉の形成と評価—大学から社会へ—」)滋賀大学
- ・松下佳代 2013.12.1 「サブテーマ1の研究目的・計画・進捗状況について—」大学教育学会2013年度課題研究集会(課題研究「学士課程教育における共通教育の質保証」)同志社大学
- ・松下佳代 2014.3.19 「コンセプトマップを用いた深い学習の評価—哲学系科目におけるアクションリサーチ—」第20回大学教育研究フォーラム(参加者企画セッション「学生の学びのデータ化・分析・活用—学習科学・教育

工学・教育方法学の知見から一」京都大学

- ・平山朋子・松下佳代・西村敦・堀寛史 2014.3.19 「思考と実践をつなぐパフォーマンス評価―「考える OSCE-R」における学生の学び―」第20回大学教育研究フォーラム，京都大学
- ・長沼祥太郎・松下佳代 2014.3.19 「日本におけるサイエンスコミュニケーション活動事例の分類と課題の考察―学生の社会参加という観点から―」第20回大学教育研究フォーラム，京都大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「教育学基礎ゼミナールⅢ」（後期）

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科，前・後期）
- ・「高等教育方法演習ⅢA・B」（教育学研究科，前・後期）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科，前期）
- ・研究科横断型教育プログラム「大学で教えるということ」（教育学研究科，後期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・FD 研究検討委員会 第2 WG メンバー
- ・京都大学附属図書館研究開発室員
- ・吉田南構内交通安全委員会 委員長
- ・女性研究者支援センター ワーキンググループ事業推進員

【社会活動】

- ・日本教育学会理事，機関誌編集副委員長（～2013 年 9 月）
- ・日本教育方法学会理事
- ・日本カリキュラム学会理事，国際交流委員会委員
- ・教育目標・評価学会理事
- ・大学教育学会理事，学会誌編集委員
- ・文部科学省 育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会委員
- ・国立教育政策研究所「教育課程の編成に関する基礎的研究」（国際研究班Ⅱ）に係る委員（2013 年 10 月～2014 年 3 月）
- ・学校図書算数教科書著作者
- ・山梨学院大学附属小学校学習カリキュラムセンター客員研究員（講演）

【FD 関係】

- ・松下佳代 2013.7.29 「大学教育における学習評価の構図―パフォーマンス評価を中心に―」名古屋大学高等教育研究センター第66回客員教授セミナー，名古屋大学
- ・松下佳代 2013.8.6 「学習の質をどう評価するか―医療人教育におけるパフォーマンス評価を中心に―」藤田保健衛生大学医療科学部相互研修 FD，藤田保健衛生大学
- ・松下佳代 2013.10.4 「大学教育における学習評価の構図―パフォーマンス評価を中心に―」ベネッセ勉強会
- ・松下佳代 2013.11.1 「教養教育で育成する能力をどう考え，どう評価するか」第16回金沢大学教養教育全学研究会，金沢大学
- ・松下佳代 2013.11.18 「パフォーマンス評価の考え方と方法」摂南大学薬学部 FD フォーラム，摂南大学
- ・松下佳代 2013.12.4 「学習成果の評価の方法―パフォーマンス評価を中心に―」平成25年度（第16回）弘前大

学FDワークショップ, 弘前大学

- ・松下佳代 2014.1.9 「学習成果の基礎と最近の動向—学習成果をどう評価するか?—」広島大学歯学部教員FD兼大学間連携共同教育推進事業FD, 広島大学
- ・松下佳代 2014.2.13 「学習成果の基礎と最近の動向—学習成果をどう評価するか?—」東北大学歯学部FD兼大学間連携共同教育推進事業FD, 東北大学
- ・松下佳代 2014.2.19 「大学教育とリテラシー—教養教育を中心に—」愛知教育大学教育創造開発機構主催「リベラル・アーツ型教育の展開」シンポジウム2013, 愛知教育大学
- ・松下佳代 2014.3.5 「学修成果の評価の方法—ルーブリックと評価課題の開発を通して—」山口大学FDワークショップ, 山口大学
- ・松下佳代 2014.3.7 「学生に求められる能力とその評価—パフォーマンス評価を中心に—」平成26年度臨床実習指導者会議講演会, 藍野大学

【その他】

- ・松下佳代 2013.6.29 「学力を意味のある能力にするために」畿央大学開学10周年記念教育学部シンポジウム「21世紀を生き抜く子どもの学力形成」, 畿央大学
- ・松下佳代 2013.10.20 「PISAリテラシーとパフォーマンス評価」京都私立中高連合会 研究大会, 京都産業大学附属中高

飯吉 透 (教授)

1. 研究業績

【著書など】

- ・飯吉透 2013.9 「オープンエデュケーションがもたらす大学改革と高等教育2.0」『サイバーメディアフォーラム』第14号, 5-9頁, 大阪大学サイバーメディアセンター
- ・飯吉透 2013.12 「我が国の大学教育オープン化の先駆者たれ」『京大広報』第695号, 4038頁, 京都大学渉外部広報・社会連携推進室
- ・飯吉透 2014.1 「オープンエデュケーションと教育開革のすすめ」『視聴覚教育』第795号, 2-3頁, 日本視聴覚教育協会
- ・京都大学 2014.3 「平成25年度文部科学省先導的の大学改革推進委託事業 高等教育機関等におけるICTの利活用に関する調査研究 委託業務成果報告書」(事業代表, 分担執筆)
- ・飯吉透 2014.3 「オープンエデュケーションの進展と高等教育の質保証の課題—MOOCの台頭を巡って」『カレッジマネジメント』第185号, 6-11頁, リクルート

【学会発表】

- ・飯吉透 2013.11.30 「アクティブラーニングの是非を巡って: 教育文化の視点から」大学教育学会課題研究集会, 同志社大学
- ・飯吉透・酒井博之 2014.3.18 「百倍返しの教育イノベーション—大学教育コモンズとMOST教員コミュニティの構築」第20回大学教育研究フォーラム, 京都大学

2. 教育活動

【学内・学外】

①全学共通教育

- ・ポケットゼミ「オープンエデュケーション入門」(前期)
- ・KUINEP「The World of Open Education」(後期)

③大学院教育

- ・「高等教育システム演習A・B」(教育学研究科, 前・後期)
- ・「高等教育論開発論研究A・B」(教育学研究科, 前・後期)

- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科，前期）
- ・研究科横断型教育プログラム「大学で教えるということ」（教育学研究科，後期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・全学・点検・評価実行委員会委員
- ・FD 研究検討委員会 第2 WG メンバー
- ・OCW 運用委員会委員

【社会活動】

- ・北陸先端科学技術大学院大学 大学院教育イニシアティブセンター 客員教授
- ・私学高等教育研究所 客員研究員
- ・文部科学省高等教育局「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」行政事業レビュー委員（外部有識者）
- ・文部科学省生涯学習政策局「ICT を活用した課題解決型教育の推進事業」企画評価委員会委員
- ・文部科学省生涯学習政策局「ICT を活用した課題解決型教育の推進事業」（諸外国における教育の情報化に関する調査研究）企画評価委員会委員
- ・NHK 日本賞審査委員
- ・大阪市特別参与
- ・日米研究インスティテュート 運営アドバイザー

【講演】

- ・飯吉透 2013.5.15 「オープンエデュケーションがもたらす大学改革と新たな学びの時代」EDIX セミナー，東京ビッグサイト
- ・飯吉透 2013.5.26 「ウェブで学ぶーオープンエデュケーションと知の革命ー」Edu×Tech Fes'13，東京大学
- ・飯吉透 2013.6.1 「ポスト『ウェブで学ぶ』のウェブとオープンエデュケーションの動向」GOEN Conference, Global Open Education Network, キャンパスプラザ京都
- ・飯吉透 2013.6.7 「オープンエデュケーションの光と陰：MOOCs の現状と課題」New Education EXPO 東京，東京ファッションタウンビル
- ・飯吉透 2013.6.22 「オープンエデュケーションの光と陰：MOOCs の現状と課題」New Education EXPO 大阪，大阪マーチャングाइズ・マート
- ・飯吉透 2013.6.30 「Open Up Education: The Century of Learning Revolution」TedxYouth in Kyoto，京都造形芸術大学
- ・飯吉透 2013.7.1 「オープン化する高等教育とグローバル人材育成」グローバルビジネス学会第12回セミナー，東京21c クラブ
- ・飯吉透 2013.8.5 「大学授業の現在と未来」大学院生のための教育実践講座，京都大学
- ・飯吉透 2013.8.24 「オープンエデュケーションの進展と高等教育のグローバル化を巡る質保証の課題」高等教育質保証学会招待講演，京都大学
- ・飯吉透 2013.8.30 「Advancing English-Enabled Learning and Teaching with Open Education」大学英語教育学会基調講演，京都大学
- ・飯吉透 2013.9.10 「ICT による教育支援」新任教員教育セミナー，京都大学
- ・飯吉透 2013.9.18 「学生の目の色が変わる授業の仕方を内緒で教えます！」FD 講習会，同志社女子大学
- ・飯吉透 2013.10.23 「Open Education と日本の大学教育の展望」サイエンティフィック・システム研究会，ホテルオークラ神戸
- ・飯吉透 2013.10.26 「オープンエデュケーションと大学教育のグローバル進化：新たな学びの時代の到来」，仙台白百合女子大学
- ・飯吉透 2013.11.14 「オープンエデュケーションと新たな学びの環境：OCW と MOOC を中心に」，成城大学

- ・飯吉透 2013.11.14 「グローバル化・オープン化する高等教育の中で今、日本の大学が生き残るために求められるもの」, 成城大学
- ・飯吉透 2013.11.19 「MOOC と日本の教育の未来」JMOOC 設立総会・講演会基調講演, 放送大学東京文京学習センター
- ・飯吉透 2013.12.6 「メディアやテクノロジーを利用した大学教育の最新動向」工学部第9回教育シンポジウム, 京都大学
- ・飯吉透 2014.1.26 「日本の高等教育改革とアナリティックスの可能性—MOOC, オープンエデュケーション, ICT 利用による教育支援をめぐる—」国際シンポジウム「学生の学びをどう記録し分析するか」, 京都大学
- ・飯吉透 2014.2.3 「高等教育進化論: グローバル化・オープン化・フラット化の時代に大学・教員・学生はどう変わるのか」, 神戸大学
- ・飯吉透 2014.2.10 「学生参加型の授業づくりを目指して—アクティブでオープンな学びへの誘い—」, 筑紫女学園
- ・飯吉透 2014.2.12 「オープンでフラットな学びとやる気格差」Benesse EduTech 新しい学びのシンポジウム, 東京大学
- ・飯吉透 2014.2.26 「The Possibilities and Issues of Globalized and Open Higher Education for Japan and U.S. Universities」U.S.-Japan Institute, Washington D.C.
- ・飯吉透 2014.3.7 「グローバル人材とオープンエデュケーション」グローバル人材 5000 プロジェクトキックオフセミナー, 東洋大学

【その他】

- ・飯吉透・黒川清・佐藤邦明 2013.7.5 「大変革の時代のサバイバル戦略—グローバル人材育成と教育イノベーションを巡って」(パネルディスカッション) 第12回 manaba セミナー, 経団連会館カンファレンス
- ・飯吉透 2013.10 「edX に参加する京都大学, その真意とは?—MOOC は日本の大学の高等教育に何をもたらすのか」(インタビュー), 『化学』第68巻10月号, 51-54頁, 化学同人
- ・飯吉透 2013.9.17 「クローズアップ現代: あなたもハーバード大へ—広がる無料オンライン講座—」NHK 総合テレビ番組出演

溝上 慎一 (准教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・溝上慎一 2013.4 「何をもってディープラーニングとなるのか?—アクティブラーニングと評価—」河合塾 (編) 『「深い学び」につながるアクティブラーニング—全国大学の学科調査報告とカリキュラム設計の課題—』東信堂, 277-298 頁
- ・溝上慎一 2013.5 「青年期」「学校から仕事への移行」日本発達心理学会 (編) 『発達心理学事典』丸善, 296-297 頁, 418-419 頁
- ・溝上慎一 2014.1 「自己意識・自己形成」日本青年心理学会 (企画) 後藤宗理・二宮克美・高木秀明・大野久・白井利明・平石賢二・佐藤有耕・若松養亮 (編) 『新・青年心理学ハンドブック』福村出版, 114-126 頁
- ・溝上慎一・松下佳代 (編) 2014.3 「高校・大学から仕事へのトランジション—変容する能力・アイデンティティと教育—」ナカニシヤ出版
- ・溝上慎一 2014.3 「自己—他者の構図から見た越境の説明—アクティブラーニングの潮流に位置づけて—」富田英司・田島充士 (編) 『大学教育—越境の説明をはぐくむ心理学—』ナカニシヤ出版, 221-230 頁
- ・溝上慎一 2014.3 「学校から仕事への移行」ブラウン, B.・プリンシュタイン, M. J. (編) 子安増生・二宮克美 (監訳) 青年期発達百科事典編集委員会 (編) 『青年期発達百科事典第2巻』丸善, 106-115 頁
- ・溝上慎一 2014.3 「大学時代の経験から仕事につなげる—学校から仕事へのトランジション—」中原淳・溝上慎一編 『活躍する組織人の探究—大学から企業へのトランジション—』東京大学出版会, 49-72 頁
- ・保田江美・溝上慎一 2014.3 「初期キャリア以降の探求—「大学時代のキャリア見通し」と「企業におけるキャ

リアとパフォーマンス」を中心に」中原淳・溝上慎一編『活躍する組織人の探究—大学から企業へのトランジション—』東京大学出版会、139-173 頁

【論文】

- ・畑野快・溝上慎一 2013.5 「大学生の主體的な授業態度と学習時間に基づく学生タイプの検討」『日本教育工学会論文誌』, 第 37 巻第 1 号, 13-21 頁
- ・溝上慎一 2013.5 「今なぜアクティブラーニングか—社会的背景とその用語の持つ意味—」『埼玉県高等学校教育相談研究会研究紀要』第 32 号, 3-8 頁
- ・Kawai, T., & Mizokami, S. 2013.9 Analysis of bridge learning: Focus on the relationship between bridge learning, approaches to learning, and the connection of present and future life. Educational Technology Research, 36, 23-31.
- ・溝上慎一 2013.10 「ポジショニングによって異なる私—自己の分権的力学の実証的検証—」『心理学研究』, 第 84 巻第 4 号, 343-353 頁
- ・溝上慎一・畑野快 2013.10 「将来展望と日常生活との接続が学業に与える影響—接続尺度の開発を通して—」『キャリアデザイン研究』, 第 9 号, 65-78 頁

【学会発表】

- ・Nakama, R., & Mizokami, S. 2013.5.17 Does the changeability and multiplicity of the self affect beneficiality on self-formation or identity-formation? Poster presented at the Society for Research on Identity Formation 20th Annual Conference., St. Paul, Minnesota
- ・蔣妍・溝上慎一 2013.6.2 「学生の深い学習を促すためのピア・インストラクションの実践研究—大規模講義を対象として—」大学教育学会第 35 回大会, 東北大学
- ・畑野快・高橋雄介・溝上慎一 2013.8.18 「自己効力感の変化が自己調整学習方略の変化に与える影響—潜在差得点モデルを用いた検討—」『日本教育心理学会第 55 回総会発表論文集』310 頁, 法政大学
- ・館野泰一・溝上慎一・中原淳・木村充・保田江美・河井亨 2013.9.23 「大学時代における人間関係の構築が入社後の初期キャリアに与える影響」『日本教育工学会第 29 回全国大会講演論文集』995-999 頁, 秋田大学
- ・溝上慎一 2013.11.17 指定討論 研究委員会企画シンポジウム「研究者がとらえる「青年」とは—研究委員会共同調査の結果にもとづく検討—」日本青年心理学会第 21 回大会, 福島大学
- ・高橋哲也・深野政之・溝上慎一 2014.3.18 「大阪府立大学の IR の取組 2 —学生調査と教務データの活用—」第 20 回大学教育研究フォーラム, 京都大学
- ・畑野快・杉村和美・高橋雄介・溝上慎一 2014.3.22 「Utrecht-Management of Identity Commitments Scale を用いたアイデンティティ・ステータスの発達の变化の検討—青年期前期・中期・後期の青年を対象とした横断調査から—」日本発達心理学会第 25 回大会, 京都大学
- ・溝上慎一 2014.3.23 企画・趣旨説明 大会委員会企画シンポジウム「海外と比較可能な日本の青年期アイデンティティ発達の理解を目指して」日本発達心理学会第 25 回大会, 京都大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「自己形成の心理学」（前期）
- ・「心理学概論 B」（後期）

② KUINEP

- ・「University and University Student I Today's Japan」（前期）
- ・「Self Formation in Adolescence」（後期）

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科, 前・後期）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科, 前期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ FD 研究検討委員会
- ・ 2014 年度新入生特別セミナー「キャリア教育」担当

【社会活動】

- ・ 日本青年心理学会常任理事
- ・ 大学教育学会常任理事
- ・ 日本青年心理学会『青年心理学研究』編集委員
- ・ International Conference on the Dialogical Self, Scientific Committee 委員
- ・ Journal of Adolescence, Editorial Board 委員
- ・ 電通育英会大学生調査プロジェクトアドバイザー
- ・ 大阪府立大学高等教育推進センター IR 顧問
- ・ 中国・四国地域人材育成事業島根大学外部評価委員会委員
- ・ 東北大学加齢医学研究所共同研究員
- ・ 学校法人河合塾・新学力プログラムプロジェクト「教育プロジェクトの設計およびそのための調査・研究」業務委託

【講演】

- ・ 溝上慎一 2013.5.10 「キャリア教育とアクティブラーニングから高大接続を考える」滋賀県高等学校進路指導研究会平成 25 年度
- ・ 溝上慎一 2013.6.2 「高校・大学で求められるアクティブラーニング」第 1 回高校大学（「学び・育ち」の）連携フォーラム基調講演
- ・ 溝上慎一 2013.8.3-4 「第 1 日目の討議を振り返って」学研教育みらい高校教育フォーラム講演
- ・ 溝上慎一 2013.8.9 「学びを成長につなげるファクター—本日のまとめ—」産業能率大学第 7 回キャリア教育推進フォーラム講演
- ・ 溝上慎一 2013.8.17 「大学生の学び・キャリア」大学教育研究フォーラム 2013・高校教諭のためのシンポジウム企画・講演ほかパネリスト、総括
- ・ 溝上慎一 2013.8.23 「教授学習観の転換とアクティブラーニング」椋山女学園大学看護学部 FD 講演
- ・ 溝上慎一 2013.8.29 「生徒の大学入学後の姿，社会にどのように出ているかを考えたことがありますか？—地方高校出身者の将来を考える難しさ—」宮城県気仙沼高等学校 PTA 教育講演会講演
- ・ 溝上慎一 2013.9.6-8 「人間行動心理学特講Ⅱ」久留米大学文学部集中講義
- ・ 溝上慎一 2013.9.9 「アクティブラーニングの実践に向けて—講演とワークショップ—」東海大学短期大学部大学部産業界ニーズ連携 FD 講演会
- ・ 溝上慎一 2013.9.27 「自己形成の心理学」三重県立津西高等学校一日総合大学模擬講義
- ・ 溝上慎一 2013.9.28 「高大接続・トランジションをにらんだ生徒の学びと成長」学研教育みらい東北地区入試対策研究会講演
- ・ 溝上慎一 2013.10.6 「心理学研究における「青年」「青年期」概念の現在」卓越した大学院拠点形成支援プロジェクト「「青年期」メディアとしての雑誌と読書文化の総合的研究」研究会報告
- ・ 溝上慎一 2013.10.21 「なぜ今アクティブラーニングが求められるのか—進学校とキャリア教育—」広島市立舟入高等学校講演
- ・ 溝上慎一 2013.11.1 「教授学習観の転換とアクティブラーニング」近畿大学新任教員研修会講師
- ・ 溝上慎一 2013.11.2 「ポジショニングによって異なる私—自己の分権的力学—」田辺三井製薬・発達から見た認知機能研究会特別講演Ⅰ
- ・ 溝上慎一 2013.11.6 「今なぜアクティブラーニングか」広島県立廿日市高等学校公開研究授業講演
- ・ 溝上慎一 2013.11.29 「なぜ今キャリア教育か，何がキャリア教育か？」第 40 回関東地区高等学校進路指導研究協議会神奈川大会基調講演

- ・溝上慎一 2013.12.2 「なぜ今 21 世紀型能力が求められるのか—トランジション・アクティブラーニング・キャリア教育—」大阪府立寝屋川高等学校公開授業研究会基調講演
- ・溝上慎一 2013.12.5 「茨田高校の生徒に身につけさせる力は何か？—社会の変化を念頭に置いて—」大阪府立茨田高等学校講演
- ・溝上慎一 2013.12.6 「分科会：キャリア教育」助言者，平成 25 年度京都市立西京高等学校・附属中学校中高一貫教育研究大会
- ・溝上慎一 2013.12.13 「大学で成功して，力強く社会に出て行くために」三重県津高等学校キャリア講演
- ・溝上慎一 2013.12.19 「意識の高い日々の過ごし方（大学生活）が将来を決める」神戸大学全学キャリア科目「職業と学び—キャリアデザインを考える—」講師
- ・溝上慎一 2014.1.26 「アクティブラーニングの視点から」京都大学高等教育研究開発推進センター主催国際シンポジウム「学生の学びをどう記録し分析するか—MOOCs, アクティブラーニングと Learning Analytics をめぐって—」指定討論
- ・溝上慎一 2014.2.12 「授業の常識をひっくりかえす！反転授業を考える—アクティブラーニングの視点から—」島根大学 FD 研究会基調講演
- ・溝上慎一 2014.2.23 「教授学習パラダイムの転換とアクティブラーニングの主唱」大学コンソーシアム京都第 19 回 FD フォーラム第 9 分科会報告
- ・溝上慎一 2014.2.25 「大学・高校におけるアクティブラーニング型授業の展開—「教える」から「学ぶ」への転換」「平成 25 年度とやまの県立学校人づくり推進事業」学力向上を支援する「ピア・インストラクション」に関する研究会講演

【その他】

（新聞・雑誌）

- ・溝上慎一 2013.4.10 「主体性 4 年間では変わらない」『大学新聞』
- ・溝上慎一 2013.4.19 「教養の講義最も役立った—25～39 歳大卒会社員調査」『読売新聞』
- ・溝上慎一 2013.5.16 「高校生活の解明」『読売新聞』
- ・溝上慎一 2013.6 「大学生が意欲的に学び成長するためには高校時代の学びや意識付けがポイントになる」全国大学生生活協同組合連合会『Campus Life』2013 年 6 月号
- ・溝上慎一 2013.7 「「高校教育フォーラム 2013」に向けて—「高校生の学びとキャリア」をどう考えるか？」『学研・進学情報』2013 年 7 月号
- ・溝上慎一 2013.10 「経験や勘からデータ重視へと教学改善を跳躍させる IR」株進研アド『Between』2013 年 10-11 月号
- ・溝上慎一 2013.11 「展望「時間の主体性」強化が自己形成を促す」リクルートマネジメントソリューションズ『RMSmessage』2013 年 11 月号
- ・溝上慎一 2014.1.15 「特集：対話「葛藤と疑問の構図を持つ自己内対話」」日本心理学会編『心理学ワールド』64 号

田口 真奈（准教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・大山牧子・田口真奈 2013.8 「大学におけるグループ学習の類型化—アクティブ・ラーニング型授業のコースデザインへの示唆—」『日本教育工学会論文誌』第 37 巻第 2 号，129-143 頁
- ・Hiroyuki SAKAI & Mana TAGUCHI 2013.9 Development of Course Portfolio Program for University Teachers. Educational Technology Research, 36, 33-42.
- ・松下佳代・田口真奈・大山牧子 2013.11 「深い学習の評価ツールとしてのコンセプトマップの有効性—哲学系入門科目でのアクションリサーチを通じて—」『大学教育学会誌』第 35 巻第 2 号，121-130 頁
- ・大山牧子・田口真奈 2013.12 「大学における教員のコースデザインの協調的な省察を促す支援環境の構築」『京

都大学高等教育研究』第19号, 59-71 頁

- ・田口真奈・酒井博之・大山牧子・藪厚生・金田忠裕・土井智晴 2013.12 「カリキュラム改善を目指したコースポートフォリオの作成・共有の試み—大阪府立大学高専メカトロニクスコースを事例として—」『日本教育工学会論文誌』第37巻増刊号, 149-152 頁
- ・大山牧子・田口真奈 2013.12 「カード構造化法を用いた大学初任教員の授業省察」『日本教育工学会論文誌』第37巻増刊号, 173-176 頁
- ・大山牧子・酒井博之・村上正行・田口真奈 2014.1 「大学におけるコース間の接続に基づく教員の省察を促すためのeポートフォリオの活用」『教育システム情報学会誌』第31巻第1号, 119-131 頁
- ・杉原真晃・半澤礼之・村上正行・田口真奈 2014.3 「若手FD担当者が抱える不安の量的および質的研究—雇用形態・授業経験年数・FDへの関わり方との関連に着目して—」『山形大学高等教育研究年報』第8号, 36-44 頁

【その他著作物】

- ・田口真奈 2013.7 「ディープラーニング／アクティブラーニングと自立させる授業づくり」『武庫川女子大学平成24年度「学生の自立を促す教育」のための勉強会報告書』3-38 頁
- ・田口真奈・田中一孝・松下佳代 2014.3 「文学研究科プレFDプロジェクト」『京都大学高等教育叢書33 相互研修型FD拠点活動報告2013』20-34 頁
- ・田口真奈 2014.3 「FD共同実施ワーキンググループ」同上, 158-169 頁
- ・酒井博之・飯吉透・田口真奈 2014.3 「MOST」同上, 187-196 頁

2. 教育活動

【学内】

②大学院教育

- ・「高等教育開発論研究A・B」(教育学研究科, 前・後期)
- ・「高等教育開発論基礎」(教育学研究科, 前期)
- ・研究科横断型教育プログラム「大学で教えるということ」(教育学研究科, 後期)

3. その他活動

【学内委員】

京都大学教育学研究科・教務委員

酒井 博之 (准教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・酒井博之 2013.4 「京都大学におけるICTを活用した教育改善の取り組み」岩手大学大学教育総合センター編『ICTで実現する大学教育改革—フランス・カナダ・日本の事例から—』東北大学出版会, 149-160 頁

【論文】

- ・Sakai, H. & Taguchi, M. 2013.9 Development of Course Portfolio Program for University Teachers, Educational Technology Research, 36, 33-42. (翻訳)
- ・田口真奈・酒井博之・大山牧子・藪厚生・金田忠裕・土井智晴 2013.12 「カリキュラム改善を目指したコースポートフォリオの作成・共有の試み—大阪府立大学高専メカトロニクスコースを事例として—」日本教育工学会論文誌, 第37巻増刊号, 149-152 頁
- ・大山牧子・酒井博之・村上正行・田口真奈 2014.1 「大学におけるコース間の接続に基づく教員の省察を促すためのeポートフォリオの活用」教育システム情報学会誌, 第31巻第1号, 119-131 頁

【その他の著作物】

（報告書）

- ・酒井博之 2013.6 関西地区 FD 連絡協議会第 6 回総会「FD 活動報告会 2013」, 関西地区 FD 連絡協議会広報ワーキンググループ編（編集責任者）（PDF 版）
- ・酒井博之 2014.3 平成 25 年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業「高等教育機関における ICT の利活用に関する調査研究」委託業務成果報告書, 京都大学（共同執筆）
- ・酒井博之 2014.3 「FD 活動の報告会 2013」『京都大学高等教育叢書 33 相互研修型 FD 拠点活動報告 2013』153-157 頁
- ・酒井博之・田中一孝 2014.3 「広報ワーキンググループ」同上, 175-177 頁
- ・酒井博之・飯吉透・田口真奈 2014.3 「MOST」同上, 187-191 頁
- ・酒井博之・飯吉透 2014.3 「Open Education Conference 2013 参加報告」同上, 360-365 頁

【学会発表】

- ・酒井博之・田口真奈・大山牧子 2013.9 「カリキュラム改善のためのコースポートフォリオ実践プログラム改訂の試み」『日本教育工学会第 29 回全国大会講演論文集』827-828 頁, 秋田大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「音響心理学概論」（後期）

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科, 前・後期, 共同）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科, 前期, リレー講義）
- ・「高等教育文献講読演習 B」（教育学研究科, 後期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・FD 研究検討委員会（WG1 メンバー）

【社会活動】

- ・関西地区 FD 連絡協議会 広報ワーキンググループ
- ・京都大学サマーデザインスクール「オープンエデュケーションとビッグデータを利用した Personalized Learning 支援環境のデザイン」（2013.9.25-27）京都市サーチパーク
- ・平成 25 年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業「高等教育機関等における ICT の利活用に関する調査研究」運営・統括補佐, 調査項目①—1 主査（2013.9.30～2014.3.31）
- ・公益財団法人京都高度技術研究所「高度な音響通信を用いた新サービスの創出と今後の展開戦略の調査検討」等についての助言（2013.12.1～2014.3.31）

【講演】

- ・飯吉透・酒井博之 2014.3.18 「百倍返しの教育イノベーション—大学教育コモンズと MOST 教員コミュニティの構築—」第 20 回大学教育研究フォーラム小講演, 京都大学

【その他】

- ・酒井博之 2013.9.19 「テクノロジーが拓く大学教育—相互に学び合う教員コミュニティの実践事例を中心に—」京都大学大学院文学研究科 FD 研修会, 京都大学
- ・酒井博之 2013.10.10 「深いアクティブラーニングを創発させる学習評価とテクノロジー—Learning Catalytics を中心に—（事例報告）」京都大学高等教育研究開発推進センター第 86 回公開研究会, 京都大学
- ・酒井博之 2013.10.25 「オープンエデュケーションは大学教育をどう変革していくのか?—MOOCs, Big Data,

Personalized Learning を巡って〜」(パネルディスカッション), ANA クラウンプラザホテル京都

- ・酒井博之 2013.11.25 「学生の自主的な学習をサポートするツールについて(話題提供)」京都大学 FD 研究検討委員会勉強会, 京都大学
- ・酒井博之 2014.2.23 「大学教育改善のためのオープンエデュケーションの活用」「オープンエデュケーションを活かした FD と教育改善(第2分科会, 話題提供)」第19回 FD フォーラム, 大学コンソーシアム京都, 龍谷大学

田中 一孝(特定助教)

1. 研究業績

【論文】

- ・Ikko Tanaka 2013.6 “The Immortality of a Philosopher in Plato’s Symposium,” *the Proceedings of the International Plato Society, X Symposium Platonicum Supplementary Volume*, 26-30

【その他の著作物】

(報告書)

- ・田中一孝 2014.1 「思考し表現する学生を育てる V—レポート・ライティングに関する授業設計を考える」関西地区 FD 連絡協議会『Kansai FD NEWS』11, 2-3
- ・田口真奈・田中一孝・松下佳代 2014.3 「文学研究科プレ FD プロジェクト」『京都大学高等教育叢書 33 相互研修型 FD 拠点活動報告 2013』20-33 頁
- ・田中一孝・松下佳代 2014.3 「大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか—」同上, 35-47 頁
- ・田中一孝 2014.3 「関西地区 FD 連絡協議会: 活動成果の概要」同上, 125-130 頁
- ・松下佳代・田中一孝 2014.3 「関西地区 FD 連絡協議会: FD 連携企画ワーキンググループ活動報告書」同上, 170-174 頁
- ・酒井博之・田中一孝 2014.3 「関西地区 FD 連絡協議会: FD 広報ワーキンググループ活動報告書」同上, 175-177 頁
- ・田中一孝 2014.3 「FD ネットワーク代表者会議記録」同上, 282-283 頁
- ・大塚雄作・田中一孝・斎藤有吾 2014.3 「第6回 FD ネットワーク代表者会議を終えて」同上, 284-286 頁
- ・大塚雄作・田中一孝 2014.3 「相互研修型 FD 共同利用拠点諮問委員会の概要」同上, 287-292 頁
- ・大塚雄作・田中一孝 2014.3 「相互研修型 FD 共同利用拠点運営委員会の概要」同上, 299-302 頁
- ・松下佳代・田中一孝 2014.3 「深いアクティブ・ラーニングを創発させる学習評価とテクノロジー」同上, 303-305 頁
- ・田中一孝・飯吉透 2014.3 「学生の学びをどう記録し分析するか—MOOCs, アクティブラーニングと Learning Analytics をめぐって」同上, 340-341 頁

【学会発表】

- ・Ikko Tanaka 2013.7.18 “The Immortality of a Philosopher in Plato’s Symposium,” the International Plato Society, X Symposium Platonicum, Pisa
- ・田中一孝 2013.10.14 「プラトン『国家』篇第10巻における絵画製作と模倣術の類比について」美学会第64回全国大会, 東京藝術大学

2. 教育活動

【学内】

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科, 前・後期)
- ・「高等教育開発論基礎」(教育学研究科, 前期)

第二部門（全学共通教育カリキュラム企画開発部門）

赤松 紀彦（教授）

1. 研究業績

【著書】

（共著）

- ・赤松紀彦編 2014.1 『アジアの芸術史 文学上演篇Ⅰ 中国の伝統文芸・演劇・音楽』幻冬舎, 197 頁
- ・赤松紀彦・道坂昭廣ほか著 2014.3 『中国語の世界—上海・2014』大地社

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「中国語ⅠA・B」
- ・「中国語ⅡA・B」

②学部教育

- ・「東アジア比較芸能論演習 A・B」
- ・「東アジア比較芸能論 B」
- ・「文化環境学入門 A」（以上、総合人間学部）

③大学院教育

- ・「共生人間学Ⅰ・Ⅱ」
- ・「東アジア比較芸能論 B」
- ・「地域文明論演習」（以上、人間・環境学研究科）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・CALL システム運用委員会

吉田 純（教授）

1. 研究業績

【著書】

（共編著）

- ・田中紀行・吉田純（編著） 2014.1 『モダニティの変容と公共圏』京都大学学術出版会, 218 頁

【学会発表】

- ・吉田純 2014.3.26 「「ネット公共圏」の原型の再発見—ニフティフォーラム研究の意義—」第2回ニフティフォーラム研究報告会, ニフティ株式会社

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「社会学Ⅱ」
- ・「社会学Ⅳ」
- ・「社会学基礎ゼミナールⅡ」
- ・「社会学基礎ゼミナールⅣ」

②学部教育

- ・「社会情報論」
- ・「社会情報論演習 A・B」(以上, 総合人間学部)
- ・「社会学特殊講義」(文学部)

③大学院教育

- ・「共生人間学研究 I・II」
- ・「人間・社会行動論 2」
- ・「社会行動論演習 2」(以上, 人間・環境学研究科, 博士前期課程)
- ・「共生人間学特別研究 I・II」
- ・「社会行動論特別演習 I・II」(以上, 人間・環境学研究科, 博士後期課程)
- ・「社会学特殊講義」(文学研究科)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・全学共通教育システム委員会 全学情報セキュリティ幹事会 委員

【社会活動】

- ・社会情報学会 会誌編集委員
- ・近畿地区大学教育研究会 専門委員, 企画小委員会委員

山本 行男 (教授)

1. 研究業績

【学会発表】

- ・赤岡一志・多喜正泰・山本行男 2013.5 「ユーロピウムイオンを発光中心とする時間分解型亜鉛蛍光センサー」第 30 回希土類討論会, 北九州国際会議場
- ・谷口暢子・多喜正泰・篠田達昭・上田純平・田部勢津久・石田昭人・山本行男 2013.5 「バイオイメーシング応用を指向した長残光蛍光体ナノ粒子の開発」第 30 回希土類討論会, 北九州国際会議場
- ・赤岡一志・多喜正泰・山本行男 2013.6 「細胞内銅一価イオン局所イメーシングを指向したスピロ開環反応型蛍光センサー」第 8 回ケミカルバイオロジー学会, 東京医科歯科大学
- ・K. AKAOKA, M. TAKI, & Y. YAMAMOTO 2013.7 “Time-Resolved Luminescence Sensor for Highly Sensitive Detection of Intracellular Zinc Ion” The 16th International Conference on BioInorganic Chemistry, Grenoble
- ・M. TAKI, K. AKAOKA, & Y. YAMAMOTO 2013.7 “Mitochondria-targeted Turn-on Fluorescent Probe for Copper (I) Based on a Rhodol Platform” The 16th International Conference on BioInorganic Chemistry, Grenoble
- ・谷口暢子・藪内由貴・多喜正泰・田部勢津久・山本行男 2013.9 「励起光を必要としない光イメーシング: 長残光蛍光体ナノ粒子の合成と機能評価」第 7 回バイオ関連化学シンポジウム, 名古屋大学
- ・赤岡一志・多喜正泰・山本行男 2013.11 「細胞内亜鉛イオンの時間分解蛍光イメーシング」第 63 回錯体化学討論会, 琉球大学
- ・下坪拓也・赤岡一志・多喜正泰・山本行男 2013.11 「ヒスチジンタグとの高い親和性を指向した Ni-NTA オリゴマーの開発」第 63 回錯体化学討論会, 琉球大学
- ・寺脇智紀・多喜正泰・山本行男 2013.11 「水中における銅触媒アジドアルキン付加環化反応の配位子による加速効果の検証」第 63 回錯体化学討論会, 琉球大学
- ・吉原朋弘・多喜正泰・山本行男 2013.11 「銅一価イオンを検出する新規時間分解型蛍光センサーの開発」第 63 回錯体化学討論会, 琉球大学
- ・寺脇智紀・酒井尚子・多喜正泰・山本行男 2014.3 「銅触媒アジドアルキン付加環化反応を加速する新規水溶性配位子の開発」日本化学会第 94 春季年会, 名古屋大学

- ・吉原朋弘・多喜正泰・山本行男 2014.3 「銅一価イオンの時間分解検出を指向した新規蛍光性希土類錯体の合成およびその分光学的特性」日本化学会第94春季年会，名古屋大学
- ・赤岡一志・多喜正泰・山本行男 2014.3 「ロドール骨格を基盤とするミトコンドリア局在型銅一価蛍光プローブの開発」日本化学会第94春季年会，名古屋大学
- ・谷口暢子・多喜正泰・山本行男 2014.3 「細胞表面タンパク質への特異的な結合特性を有する長残光蛍光体ナノ粒子の開発」日本化学会第94春季年会，名古屋大学
- ・下坪拓也・赤岡一志・多喜正泰・山本行男 2014.3 「高い His-tag 親和性を有する新規 Ni-NTA オリゴマーの開発」日本化学会第94春季年会，名古屋大学
- ・浅井悠志・多喜正泰・赤岡一志・山本行男 2014.3 「ミトコンドリア標識能を有する亜鉛蛍光プローブの開発」日本化学会第94春季年会，名古屋大学
- ・藪内由貴・谷口暢子・多喜正泰・山本行男 2014.3 「有機蛍光色素による長残光蛍光体ナノ粒子の発光制御」日本化学会第94春季年会，名古屋大学
- ・酒井尚子・多喜正泰・山本行男 2014.3 「金ナノ粒子を基盤とした 19F-MRI プローブの開発」日本化学会第94春季年会，名古屋大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「基礎有機化学 A・B」
- ・「基礎化学実験」

②学部教育

- ・「物質構造論」
- ・「課題演習：分子の構造と機能」
- ・「自然科学特別ゼミナール A・B」（以上，総合人間学部）

③大学院教育

- ・「相関環境学研究 I・II」
- ・「分子生体相関論 1」
- ・「分子環境相関論演習 1・2」
- ・「分子・生命環境基礎論」（以上，人間・環境学研究科 博士前期課程）
- ・「相関環境学特別研究 I・II」
- ・「分子環境相関論特別演習 1・2」
- ・「分子・生命環境論特別セミナー」（以上，人間・環境学研究科 博士後期課程）

3. その他の活動

【その他】

- ・京都府立向陽高等学校 出前授業（2013.10.29）

田地野 彰（教授）

1. 研究業績

【著書】

（その他）

- ・田地野彰 2013.4～2014.3 「NHK ラジオテキスト『基礎英語 1』」（「あたらしい英語の教科書—意味の順序から英語が見える」連載），NHK 出版。

【論文】

- ・ Maswana Sayako, Kanamaru Toshiyuki, & Tajino Akira 2013.12 'Analyzing the Journal Corpus Data on English Expressions across Disciplines' *The Journal of ASIA TEFL*, Vol. 10, No. 4, pp. 71-96.
- ・ Tajino Akira, Sasao Yosuke, & Dalsky David 2014.3 'Effects of Technical Vocabulary Knowledge on Academic Writing: A Nature Abstract Translation Task' *Journal of the English for Specific Purposes Special Interest Group*, IATEFL, Vol. 43, pp. 13-18.

【学会発表】

- ・ 西川美香子・森純一・田地野彰・高橋幸・金丸敏幸 2013.8.31 「京都大学 OCW を活用した英語教材と海外留学プログラムの開発・検証」大学英語教育学会第 52 回国際大会, 京都大学
- ・ 高橋幸・金丸敏幸・田地野彰 2013.8.10 「学習時間と質の確保に向けた EGAP リスニング教材の開発と運用—京大 OCW を利用して—」全国英語教育学会第 39 回研究大会, 北星学園大学
- ・ Kawanishi, K., Kanamaru, T., & Tajino, A. 2013.10.5 'A task-based approach to academic writing: Can a task facilitate peer interaction?' TBLT 学会 2013 年度国際大会 (Banff, Canada).
- ・ 田地野彰・金丸敏幸・高橋幸・細越響子・川西慧・加藤由崇 2013.12.14 「EAP 教育への統合型タスク (Integrated Task) の導入」東アジア英語教育研究会, 西南学院大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育
 - ・「英語ⅡA・B」
- ②学部教育
 - ・「英語教育方法論」(総合人間学部)
- ③大学院教育
(博士前期課程)
 - ・「共生人間学Ⅰ・Ⅱ」
 - ・「教育言語学」
 - ・「外国語教育基礎論」
 - ・「外国語教育基礎論演習」
(博士後期課程)
 - ・「共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ」
 - ・「外国語教育論特別演習1・2」
 - ・「外国語教育論特別セミナー」(人間・環境学研究科)

【学外】

- ・ 京都府立大学 英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語科教育法Ⅲ
- ・ 奈良女子大学国際交流センター 夏季英語講座
- ・ 京都府立向陽高校 (高大連携プロジェクト)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 国立七大学外国語教育連絡協議会

【学外委員】(研究活動)

- ・ 国際誌 *ELT Journal* (Oxford University Press, 英国) 編集委員
- ・ 一般社団法人大学英語教育学会関西支部副支部長
- ・ 一般社団法人大学英語教育学会本部幹事 (国際大会支部組織委員会委員長)

- ・一般社団法人大学英語教育学会本部幹事（学術出版 Selected Papers 委員会委員長）

【講演・シンポジウムなど】

- ・田地野彰・金丸敏幸・細越響子・川西慧 2013.10.25 「研究大学における TOEFL (R) の活用—EAP カリキュラムとの相乗効果を狙って—」（招待講演）（於 国立大学法人豊橋技術科学大学）
- ・田地野彰 2013.11.16 「コミュニケーションを支える文法能力の育成にむけて—『意味順』英語指導法の提案—」（招待講演）（長崎純心大学主催「第 36 回純心英語教育公開講座」）
- ・田地野彰 2013.11.29 「英語を教えるのは難しい？—新しい文法の“みかた” —」（招待講演）（京都女子大学文学部英文学科公開講座）

【その他】

- ・田地野彰 2013.11.7 平成 25 年度国立七大学外国語教育連絡協議会（於 名古屋大学）に参加・情報交換

David Jerome Dalsky（准教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・Dalsky, D., & Landis, D. 2013.10 Cross-cultural training. In K. D. Keith (Ed.). *The Encyclopedia of Cross-Cultural Psychology*. (pp. 275–278). Malden, MA: Wiley-Blackwell.

【論文】

- ・Tajino, A., Sasao, Y., & Dalsky, D. 2014.3 'Effects of Technical Vocabulary Knowledge on Academic Writing: A Nature Abstract Translation Task' *Journal of the English for Specific Purposes Special Interest Group, IATEFL*, 43, 13–18.

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「英語ⅠA」
- ・「英語ⅠB」
- ・「英語ⅡA」
- ・「英語ⅡB」
- ・「英語ⅡA 単位未修得者クラス」
- ・「英語ⅡB 単位未修得者クラス」
- ・CALL（英語ⅡAB 単位未修得者クラス）試験を作る

③大学院教育

- ・「異文化理解教育論 1」
- ・「異文化理解教育論 2」
- ・「外国語教育研究論」

【その他】

- ・Reviewer for Psychological Assessment

Stewart Timothy William（准教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・Stewart, T. 2013.3 Classroom research and classroom teachers. *Foreign Language Learning and Teaching 2013 Conference Proceedings*, 134–142.
- ・Stewart, T. 2013.7 How would an architect such as Frank Gehry design language learning tasks? In C. Stillwell (Ed.), *Language teaching insights from other fields: Sports, arts, design and more* (pp. 101–110). Alexandria, VA: International

TESOL Association.

- ・ Stewart, T. 2013.10 Japan's "super global" push for communicative English. The Kyoto JALT Review, 1, 94-111.
- ・ Stewart, T. 2014.1 Playing the numbers game in academia. The Language Teacher, 38(1), 40-41.

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「英語 I A」
- ・「英語 I B」
- ・「英語 II A」
- ・「英語 II B」
- ・「英語 II A 単位未修得者クラス」
- ・「英語 II B 単位未修得者クラス」
- ・ CALL course test creation

③大学院教育

- ・「外国語教育授業研究論 1・2」

【学外】

- ・ Ken Hyland, Alan Hirvela, & Stewart, T. 2013.8 Recent trends in TESOL research and academic publishing. Symposium moderator, Japan Association of College English Teachers, Kyoto, Japan.
- ・ Stewart, T., et al. 2013.10 Language teaching insights from other fields. Workshop Co-leader, Japan Association for Language Teaching Annual Convention, Kobe, Japan.

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 国際交流委員会委員
- ・ 楽友 編集活動

【社会活動】

- ・ 全国語学教育学会会員

桂山 康司（准教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・ 桂山康司 2014.2 「ホプキンズにおける half-line の技法—ソネット形式における結晶化への希求」日本ホプキンズ協会関西部会 NONDUM 第13号, 28-43 頁
- ・ 桂山康司 2014.2 「英詩における口語（speech）の台頭とその超克—詩的言語のイデオロギーとホプキンズ」京都大学大学院人間・環境学研究科英語部会『英文学評論』第86集, 27-36 頁

【翻訳】

- ・ 桂山康司他 2014.2 「G. M. ホプキンズ：断片詩集2」日本ホプキンズ協会関西部会 NONDUM 第13号, 111-141 頁

【学会発表】

- ・ 桂山康司 2013.5 「ホプキンズにおける half-line の技法について—」日本ホプキンズ協会 第41回連絡総会, 上智大学 SJ ハウス

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「英語ⅠA・B」
- ・「英語ⅡA・B」
- ・「イギリス詩入門（ポケット・ゼミ）」

②学部教育

- ・「西欧近現代表象文化論ⅣB」
- ・「西欧近現代表象文化論演習ⅣA・B」（以上、総合人間学部）
- ・「英語学英文学（講読）」
- ・「アメリカ文学（講読）」（以上、文学部）

③大学院教育

- ・「共生文明学Ⅰ・Ⅱ」
- ・「イギリス近現代文化論2B」
- ・「西欧文化論演習2A・B」
- ・「歴史文化社会論」（以上、人間・環境学研究科、博士前期課程）
- ・「共生文明学特別研究Ⅰ・Ⅱ」
- ・「歴史文化社会論特別セミナー」（以上、人間・環境学研究科、博士後期課程）

【学外】

- ・京都府立大学 英語A, 英語B
- ・播磨高等学校 知的好奇心学（高大連携プロジェクト）
- ・清教学園中学校（高大連携プロジェクト）
- ・石川県立小松高等学校（高大連携プロジェクト）
- ・帯広柏葉高等学校（高大連携プロジェクト）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・人間・環境学フォーラム実施委員会委員長（人間・環境学研究科）
- ・建築委員会委員（人間・環境学研究科）
- ・自己点検・評価委員会委員（人間・環境学研究科）
- ・国立七大学外国語教育連絡協議会

【社会活動】

- ・日本英文学会大会準備委員会委員長
- ・日本ミルトン協会企画委員
- ・日本ホプキンス協会関西西部会運営委員
- ・JACET 国際大会開催校準備委員
- ・岸和田市全八木地区連合子ども会指導者連絡協議会顧問

【講演】

- ・桂山康司 2013.7 「リズムを捉えろ！—英語学習の楽しみと文学の喜び」筑紫女学園高校追夢講座（高大連携プロジェクト）、筑紫女学園高等学校

久代 恵介 (准教授)

1. 研究業績

【論文】

- ・ Yamamoto, S., & Kushiro, K. 2014.2 Direction-dependent differences in temporal kinematics for vertical prehension movements. Experimental Brain Research 232: 703–711.

【学会発表】

- ・ Kushiro K., & Yamamoto S. 2013.11 Perception of Angular Rotation with Different Types of Rotational Waveforms. The 6th Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science, Taipei
- ・ Yamamoto, S., & Kushiro, K. 2013.11 The Direction-Dependent Temporal Kinematics of Vertical Prehension Movements. The 6th Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science, Taipei
- ・ 山本真史・久代恵介 2013.11 「重力が鉛直方向の到達把握運動に及ぼす影響」第71回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会, 大阪市
- ・ 山本真史・白木善英・久代恵介 2014.3 「鉛直方向への到達把握運動の運動学的特性は上下非対称を示す」第9回「宇宙環境へ適応するための感覚—運動ゲインコントロール」JAXA 宇宙環境利用科学委員会, 熱海市
- ・ 白木善英・山本真史・久代恵介 2014.3 「周期的予備動作が運動パフォーマンスに及ぼす影響」第9回「宇宙環境へ適応するための感覚—運動ゲインコントロール」JAXA 宇宙環境利用科学委員会, 熱海市

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「運動のしくみ」
- ・「行動制御実験演習」
- ・「スポーツ実習ⅠA, ⅠB」

②学部教育

- ・「認知・行動科学入門」(総合人間学部, リレー)

③大学院教育

(博士前期課程)

- ・「共生人間学Ⅰ・Ⅱ」
- ・「行動制御学演習2」
- ・「身体運動学」(以上, 大学院人間・環境学研究科)

(博士後期課程)

- ・「共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ」(大学院人間・環境学研究科)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 人間・環境学フォーラム実施委員会委員 (大学院人間・環境学研究科)

【その他】

- ・ 京都府立園部高校出張授業「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」(2013.11.20)